人文学部 開設30周年

「人間を知る」新人文学を北の大地北海道から発信

1993年に開設された人文学部が今年30周年を迎えた。人文学部は、人間が人間であることの意味を考えようとする新人文主義を理念として教育・研究に取り組んできた。これまでに7000人を超える卒業生・修了生を輩出している。

人文学部長・教授
小松 かおり

人文学部は、1993年に北海学園大学４番目の学部として日本文化学科と英米文化学科の２学科で開設され、今年開設30周年を迎えました。本学部は、冷戦が終了し、グローバル化が急激に進んだ時代に、語学力と日本文化・海外文化を学際的・比較文化論的視点で身につけた学生を育てることを目的として設置されました。1999年から2005年にかけて、大学院文学研究科日本文化専攻、英米文化専攻の修士課程、博士課程も次々と開設され、学部から博士課程までの人文学教育を担える体制が整うとともに、2000年には定員が増え、現在、両学科一部・二部をあわせて265名です。

人文学部・文学研究科は、「新人文主義」を理念としています。これは、ヨーロッパに始まる人文主義の伝統を引き継ぎつつ、西欧中心主義、人間中心主義を超えた人文学を、日本の「辺境」である北海道から発信することを目指しています。大学の実学志向が強まる今日、人文学部は良質な市民こそが良質な職業人にもなれるという考え方のもと、「人間を知る」学問としての人文学教育に取り組んできました。学生たちには、「ことば」を武器として、自分や他者としっかり対話できるようになってほしいと願っています。

海外にも学びの場を拡げる

近年は、学外に学びの場を拡げることを意識してきました。カナダ・レスブリッジ大学とのあいだで、最短5年間でふたつの大学の学位を修得できるダブル・ディグリープログラムを開始しました。留学プログラムの開拓にも力を入れ、学生のあいだに広い世界を見ることを推奨しています。また、中川町や鶴雅観光、クナウパブリッシングなど、道内各地の自治体や企業と連携した学部独自のインターンシッププログラムで学外での学びを応援しています。今後も、人間について深く掘り下げるとともに社会とつながる学生を育てていくことに邁進する所存です。

講演後は活発な質疑応答が行われた

人文学部開設30周年記念シンポジウム

新人文主義のフロンティア

「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性

人文学部は９月30日、『新人文主義のフロンティア――「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性――』をテーマとした人文学部開設30周年記念シンポジウムを開催した。歴史学が専門で20世紀の食と農の歴史を研究している京都大学人文科学研究所・藤原辰史准教授による基調講演に続き、本学人文学部・小松かおり教授と郡司淳教授による講演が行われた後、活発な質疑応答が行われた。「食」と「農」について考えることを通して、人間が人間であるために人文学は何ができるかを議論した。

基調講演	藤原（ふじはら） 辰史（たつし）	京都大学人文科学研究所・准教授（専門：農業史、環境史）
発題①	小松（こまつ）かおり	北海学園大学人文学部英米文化学科・教授（専門：生態人類学）
発題②	郡司（ぐんじ） 淳（じゅん）	北海学園大学人文学部日本文化学科・教授（専門：日本近現代史）

北海学園大学 学報

北海学園大学学報
発行・編集　北海学園大学
札幌市豊平区旭町４丁目
１番40号　〒062-8605
☎011(841)1161　FAX 011(824)3141
https://www.hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日（6月1日、9月1日、12月1日、3月15日）
購読料　１部80円　年間320円
制作・印刷　株式会社人力社
北海学園大学 学報 バックナンバー

主な記事

瑞宝中綬章受章　木村和範名誉教授　大塚龍児法務研究科教授　2面
北海学園学術研究助成事業報告㉗　法学部　堀井拓也講師　3面
研究室の窓　経営学部　中川裕美講師　4面
研究室を訪ねて⑬　経済学部　牛久晴香准教授　5面
国際交流プログラム　海外研修で異文化体験　6面
学園人脈記　第25回　北海道コンサドーレ札幌「コンサドーレズ」ディレクター　千葉侑奈氏　7面
第72回十月祭・第52回工学祭　４年ぶり通常開催　8面

食と農の人文学

―人間を深く考えるための人間中心主義批判―

京都大学人文科学研究所　**藤原辰史**　准教授

1950年代以降に起こった人口爆発を支えた6つの農業技術（トラクター、空気中の窒素をアンモニアに変える合成技術、合成農薬、品種改良、大規模単作農業、大規模畜産）は国際的な土壌劣化と水質汚染をもたらした。いま世界的な地球環境問題や食糧問題の解決策として注目されているのが、最新のテクノロジーを駆使したフードテックだ。その代表的なものが、筋肉の組織の一部を取り出して培養する「培養肉」だが、藤原氏は「〝食べる〟という行為はもっと深く哲学的なもの。命を奪わない食べ物は、人間概念を根本から変えてしまう」と警鐘を鳴らした。

生態系は生産者（光合成でブドウ糖を生産する植物）、消費者（植物を食べる、あるいはそれを食べた動物を食べることで生きるもの）、分解者（生産者の死骸などを分解し、植物の重要な栄養素に還元）という3要素が循環しているが、人間は口から肛門までの一本のチューブであると捉えると、人間もまた自然の一部であり、食物連鎖や物質循環の一部であることを指摘。

また「食べること」で人と人は繋がっている。孤立的な超個人主義的な社会が到来しているいま、藤原氏は、緩やかに弱い目的で集まった人たちが自然に併存できるような空間の必要性を訴える。「食の問題は、社会的な問題と地球環境的な問題を同時に考えることができる。そのためには歴史を大切にして、即効的な考えではなく、遅効的なスロー・ディザスターを捉えなければならず、それには人文学がふさわしい」と述べた。

アフリカの農から考える人文学

人文学部英米文化学科　小松かおり　教授

小松教授は、調査地であるカメルーンの熱帯雨林の農を事例に、農の思想と実践の多様性について紹介した。この地域の焼畑では、ひとつの畑にキャッサバや料理バナナといった主食作物をはじめ多くの種類の作物がランダムに植えられ、そのあいだには雑草が繁茂している。農民は、除草を徹底する代わりに、雑草のひとつひとつを認識し、その8割に使い道を見いだしている。日本では、農とは対象を管理したり選別するものと考えているが、カメルーンの農はそこにあるものを受容し、管理の手を抜くことで生まれるものを利用する。そのような技術は、生業複合や食の分配、共食といったことがらとも結びついている。このような農から日本が学べることがあるのではないか、と小松教授は述べる。

また、輸出用バナナとは異なり、地域の人が食べるために栽培されているバナナの豊かな世界を紹介し、地域で消費される農作物が、自分たちが食べるものを自分たちで決めることができる「食料主権」を守ると語った。

食の日本近代史

―「自分」を「主語」とした人文学の試み―

人文学部日本文化学科　**郡司淳**　教授

「私」を主語とするのは、明日をいかに生きるかを模索するにあたり、鶴見良行のような「バナナと日本人」ではなく、「バナナと私」というスタンスが必要と考えたから、と郡司教授はいう。

都市化が進んだ国ほど豊饒な食糧に囲まれる一方、農業国は飢餓を克服できないでいる。それは産業革命以降、都市が文化の中心として奢侈品を市場に供給することで社会的余剰を創出し、農村から食糧を獲得してきたからである。しかし、農村の都市化は農産物の高騰を招き、都市の生活基盤の不安定化を引き起こす。日本の近代国家は、賃金上昇を抑えつつ、労働者に「衣食と快楽」を与えるため、米を輸入するようになった。

しかし、「快楽」を追求するためには、食費は可能な限り切り詰めなければならない。近代家族が出生抑制を行う所以である。「私も、そうして「健康で文化的な生活」を築いてきたが、果たしてそれが「人間に値する生存」といえるのかという問いをいま突きつけられている」と郡司教授は締めくくった。

公営競技史　競馬・競輪・オートレース・ボートレース
古林英一（経済学部教授）著
世界に類をみない独自のギャンブル産業はいかに生まれ、存続してきたのか。各競技の前史からV字回復の要因、今後の課題までを、地域経済の関わりから研究してきた第一人者が分析する。
定価　一、一〇〇円（税込）
角川新書

グリーンランド　人文社会科学から照らす極北の島
高橋美野梨（法学部准教授）編／共著
世界最大の島グリーンランドにおける人間と自然の混淆の歴史を、人類学、政治学、歴史学、宗教学、文学など人文社会科学の知見を持ち寄り多角的に描き出す、日本で初めての論集。
定価　三、九六〇円（税込）
藤原書店

民法・消費者法理論の展開　後藤巻則先生古稀祝賀論文集
都筑満雄・白石大・根本尚徳・前田太朗・山城一真 編／谷本陽一（法学部教授）他共著
契約法および消費者法の分野を中心に、多くの優れた業績をあげた後藤巻則先生の古稀を祝し、研究者・実務家33名が民法・消費者法の諸問題を考察し、学問的深化と法の発展をめざす一冊。
定価　一三、二〇〇円（税込）
弘文堂

新ブリッジブック法社会学　―臨床的アプローチ―
和田仁孝・西田英一・仁木恒夫 編／酒井博行（法学部教授）他共著
価値と批判性を内包する「臨床」概念を通して、法の現場や多様な分野との対話を目指す法社会学へ。法の現場との対話によって、広く、具体的に学ぶ法社会学入門書。
定価　二、七五〇円（税込）
信山社

人工知能とどうつきあうか　哲学から考える
鈴木貴之 編著／柴田崇（人文学部教授）他共著
第3次人工知能ブームの到来から10年が経つ今、人間と人工知能の関係を再考する。哲学の知見を踏まえ、人工知能を人間の能力を拡張する道具と捉えて建設的な関係性を構築する道を探る。
定価　三、五二〇円（税込）
勁草書房

あたたかき日光（ひかげ）　三浦綾子・光世物語
田中綾（人文学部教授）著
三浦綾子生誕100年にちなみ、北海道新聞で連載した小説を単行本化。夫・光世が14歳から晩年までに遺した63冊の日記をもとに、夫婦の愛と創造の裏側を描く。
定価　一、九八〇円（税込）
北海道新聞社

タンパク質の構造解析手法と In silico スクリーニングへの応用事例
友池史明（工学部准教授）他共著
wet分野、dry分野、両分野による構造解析の進め方と事例を掲載。創薬研究の肝である相互作用解析や、各種ＤＢの使い方の事例が満載。
定価　八八、〇〇〇円（税込）
技術情報協会

瑞宝中綬章受章

政府は11月3日付で「2023年秋の叙勲」受章者4178名を発表した。本学関係者では、平成23年から6年間学長を務めた木村和範名誉教授と、大塚龍児法務研究科教授が、長年の教育研究功労に対して瑞宝中綬章を受章した。木村和範名誉教授の受賞は、歴代学長で7人目。勲章伝達式、拝謁は、令和5年11月13日（月）ホテル椿山荘東京、皇居宮殿で行われた。

両先生の略歴、功績等については次の通り。

※「瑞宝章」は国及び地方公共団体の公務又は公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた人に授与される。

木村和範（きむらかずのり）名誉教授（第９代学長）

【略歴】昭和23年1月12日北海道茅部郡森町生まれ。昭和45年3月北海道大学経済学部卒業、昭和47年3月北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了、昭和50年3月同博士課程単位取得満期退学。平成15年1月博士（経済学）（九州大学）。昭和50年4月本学経済学部講師。昭和51年4月助教授、昭和61年4月経済学部兼大学院経済学研究科教授。平成11年4月経済学部長（～平成14年3月）、平成15年4月経済学研究科長（～平成18年3月）、平成23年4月に第９代目学長に就任（～平成29年3月）。平成30年4月より本学名誉教授となり現在に至る。

北海学園大学長としては、工学部の4番目の学科となる生命工学科の設置を主導した。また、地域連携推進機構を設立し、連携事業を進めるための基盤整備に尽力した。さらに、学生の学修を支援するための奨学生制度である教育振興資金の設立を主導した。

大塚龍児（おおつかりゅうじ）法務研究科教授

【略歴】昭和20年4月23日北海道札幌市生まれ。昭和43年10月司法試験合格、昭和44年6月東京大学法学部第1類卒業。昭和44年7月東京大学法学部助手、昭和47年8月助教授、昭和55年12月北海道大学大学院法学研究科教授。平成6年1月司法試験考査委員（～平成15年11月）、平成6年12月北海道大学法学部長・大学院法学研究科長（～平成8年12月）、平成9年11月札幌市人事委員会委員（～平成21年3月）、平成12年2月北海道建設紛争審査会会長（～平成18年1月）。平成26年3月に北海道大学を停年退職。平成26年4月より本学法務研究科教授となり現在に至る。

令和5年度9月期

卒業証書・学位記授与

去る9月30日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、令和5年度9月期卒業証書・学位記授与式が行われた。

学部から99名（経済学部32名・経営学部19名・法学部24名・人文学部16名・工学部8名）の卒業生と、大学院から2名（法学研究科・修士課程1名、文学研究科・修士課程1名）の修了生を送り出した。

卒業証書・学位記授与

令和５年度９月期卒業生数・修了生数

学部		学科	令和５年度９月期
経済	1部	経済学科	10
		地域経済学科	0
	2部	経済学科	15
		地域経済学科	7
経営	1部	経営学科	1
		経営情報学科	0
	2部	経営学科	18
法	1部	法律学科	3
		政治学科	1
	2部	法律学科	15
		政治学科	5
人文	1部	日本文化学科	6
		英米文化学科	4
	2部	日本文化学科	5
		英米文化学科	1
工		社会環境工学科	4
		建築学科	2
		電子情報工学科	2
		生命工学科	0
1部 計			33
2部 計			66
計			99

大学院修了生	
法学研究科 法律学専攻　修士課程	1
文学研究科 日本文化専攻 修士課程	1
計	2

（単位／人）

森下宏美学長 卒業式式辞（要旨）

令和５年の９月期卒業式に寄せて

卒業生のみなさん、ご卒業まことにおめでとうございます。本日の卒業を機にみなさんは、仕事を通じて人々と関わりながら生活を営む現場としての社会へのスタートを切ります。そこには、これまで経験したことのない苦労も待っていますが、本学で培った人とのつながり、専門的知識、教養、そして学問する力を活かし、一人ひとり、よき人生を歩んでほしいと願っています。

同時に、よき社会なくして、よき人生はないということも忘れてはなりません。私たちの社会はいま大きな転機を迎えています。少子・高齢化、人口減少、地球温暖化の進行により、これまで当たり前のように享受できていたものも、簡単には手に入れることができなくなるかもしれません。他方で、ICTやAIの発達、グローバル化の進展が、私たちの暮らしを大きく変えつつあります。みなさんがこれから就かれる仕事は、どの分野の仕事であれ、これらの新しい現実への挑戦となるでしょう。そこには、新しい知恵の創造と、その知恵を活かす人々の共同がなければなりません。

みなさんが本学で身につけた学問する力は、そのことと無関係ではありません。学問とは、他者と共有できる新しい知を生み出そうとする、社会に開かれた能動的な活動です。学問は研究者だけがするのものではありません。みなさんには、学問をも一生の友としつつ、仕事やさまざまな社会活動を通じて、それぞれのよき人生を花開かせていただきたいと願っております。みなさんの未来が明るく輝かしいものであることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

Rapidus株式会社の北海道進出に伴う本学の半導体人材育成

工学部教授　藤原英樹（ふじわらひでき）

北海道半導体人材育成等推進協議会は、本学を含む教育機関15機関、企業15社、金融機関3社、経済連合会や商工会議所連合会などの10協力機関、経産省や文科省、札幌市などの5行政機関が協力し、次世代半導体製造拠点の構築と北海道内の半導体関連産業の基盤強化を推進している。特に、Rapidus株式会社の新工場が2027年度から本格稼働する予定であり、半導体開発や製造に直接関わる雇用だけでなく、製造開発に必要な資材の調達や流通、雇用増加に伴う地域の活性化などの幅広い分野に寄与すると強く期待される。これらの半導体関連企業が学生の就職先として有望視されるため、本学もこの新事業と緊密に連携し、発展の機会を掴むことが重要となる。

半導体関連実務を学ぶ教材開発　高い英語能力養成も必須

未来展望

半導体産業で必要とされる知識・技術は多岐に及ぶため、協議会に参画する教育機関には半導体関連の高度な人材を育成する重要な役割が求められる。様々な工学系の教育カリキュラムが該当し、半導体の専門科目のみならず、工学分野（電気・電子、化学、物理、機械、情報等）の素養、基礎学力を身につけた人材が広く求められる。既に工学部では、電子情報工学科において半導体関連科目として電子回路、物性工学、電気磁気学、集積回路などを学ぶ。さらに、半導体関連企業では海外との取引が必須となるため、高い英語能力も求められる。したがって、英語でのコミュニケーションスキルを養う機会を学生に提供することも必要となるため、理系学部や文系学部の垣根を越えた連携が求められている。

今後、北海道半導体人材育成等推進協議会との協力関係を一層深化し、高度理系人材の輩出や学生に対する将来のキャリアパスの提供などを通じて地域社会への貢献を進め、本学のプレゼンスを高めていくことが重要となる。本学が人材育成の側面から半導体関連産業の成長の一翼を担い、北海道内における半導体関連産業の成功と本学の発展につながることを期待する。

同窓会・豊平会が豊平キャンパス生協食堂で「100円満腹丼」提供【第2弾】

北海学園大学同窓会・豊平会は、安心で安全な食事の提供を行い、学生の食生活をサポートする「豊平会100円ランチプロジェクト」を実施している。その第2弾として10月16日から11月17日まで週に1回（計5日）、豊平キャンパス生協食堂において「豊平会100円満腹丼」を提供した。

今回はよつ葉乳業株式会社（札幌市中央区）から、LL（ロングライフ）牛乳（200㎖）が無償で提供された。

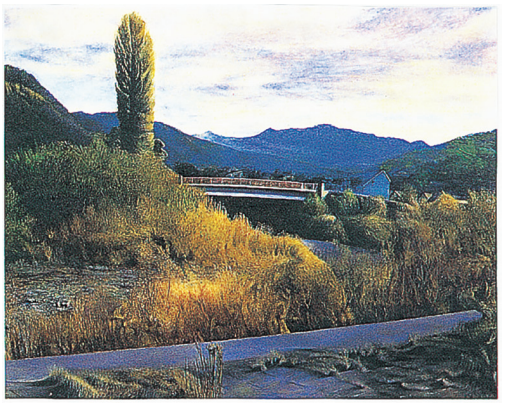
「豊平会100円満腹丼」は5月から6月にも提供され大好評となり、2度目の実施となった。各日程300食限定。売価600円（税込）のうち500円を同窓会が負担することでこのメニューが実現した。

100円満腹丼の日程とメニュー

豊陵会寄贈絵画⑰

『ふるさと秋景』高田文男

1998年度道展出品（油彩100号）
豊平校舎3号館4階42番教室前展示



《プロフィール》1929年美唄市生まれ。元三菱鉱業所勤務。元大調和会会員（1985年退会）、北海道美術協会（道展）会員。1964年大調和会会員推挙、1967年大調和会会員努力賞、1985年道展会員推挙。

令和5年度

浅羽祭挙行

学校法人北海学園主催による令和5年度浅羽祭が10月20日、本学4号館第三会議室において厳粛に執り行われた。浅羽祭は、北海学園創立功労者である浅羽靖（やすし）先生（1854～1914）のご命日に行われる慰霊祭。毎年、浅羽先生をはじめ物故された歴代の理事長、学長、校長、さらに、この1年間に逝去された教職員及び学生・生徒のご冥福をお祈りしている。

出席した関係者

訃報

元経済学部教授 竹田正直（たけだまさなお）先生（88歳）が令和5年10月15日に、名誉教授 葛西忠（かさいただし）先生（87歳）が令和5年10月20日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

竹田正直先生（ご経歴）
昭和34年北海道大学教育学部教育学科卒業、昭和36年北海道大学大学院教育学研究科修士課程教育学専攻修了、昭和39年日本学術振興会奨励研究員、昭和40年北海道大学大学院教育学研究科博士課程教育学専攻単位取得退学、昭和40年北海道大学教育学部助手、昭和47年同助教授、昭和57年同教授、平成2年教育学博士北海道大学）、平成12年本学経済学部教授および大学院経済学研究科教授（ロシア極東社会経済論など担当）、平成16年共通教育・研究センター長、平成19年退職。

葛西忠先生（ご経歴）
昭和35年東京教育大学体育学部体育運動学科卒業、昭和35年私立札幌静修高等学校勤務、昭和39年本学教養部助手、昭和41年同講師、昭和44年同助教授、昭和55年同教授、平成10年本学経済学部教授（体育実技など担当）、平成19年退職。

北海学園学術研究助成事業報告㉗

研究課題

「資本多数決濫用法理」の再検討：判断枠組みの確立と救済手段の検討

法学部講師　堀井 拓也（ほりい たくや）

1988年新潟県長岡市生まれ。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程民事法学専攻単位取得退学。修士（法学）（慶應義塾大学）。慶應義塾大学大学院法学研究科助教（有期・研究奨励）を経て、2019年4月より現職。専攻は商法・会社法。

本研究は、およそ100年にわたる議論の蓄積のあるフランス法（民法学・会社法学）の議論に示唆を得ながら、わが国における資本多数決濫用の問題の再検討を目的とするものである。

株主はその出資に応じて分配される議決権を行使することによって、株主総会決議を通じて会社の意思決定に関与することになる。特に、決議を成立させることができるだけの株式を保有する支配株主が存在する会社においては、そのような株主の意向（意思）が資本多数決制度を通じて会社の意思決定となる。多くの出資を行なった者（多くの投資を行なった者）の意思が会社の意思決定に反映される仕組み自体は問題ではない。しかし、そのような株主が株主総会決議を通じて私的な利益を追求し、少数派株主の利益を侵害する決議（に基づく会社の行為）が成立することも考えられる。

フランス法と日本法の比較検討から株主の議決権行使の基礎理論を確立

以上のような資本多数決濫用の問題は、日本法に固有のものではなく、諸外国においても問題とされてきた。フランス法における資本多数決濫用法理も古くから紹介されてきた。しかし、必ずしも具体的な問題状況に応用しうる形で検討されてきたわけではなく、また、その理論的根拠について充分に検討されてきたとは言い難い状況にあった。

以上のような問題意識のもと検討を進めたのが本研究である。フランスにおける理論的な議論を検討した3本の論文（そのうち2本は、本学法学部紀要である北海学園大学法学研究58巻3号（2022年）35頁以下、同59巻1号（2023年）37頁以下）と1本の判例研究（株式併合における株主間の利害対立の事案）を研究成果として公表した。当初の研究目標であった具体的な要件論と救済手段にかかる提言までには至らなかったが、以上の規範的な研究のための基礎研究としては成果をあげることができたと考えている。

本研究を経て、筆者の問題意識は、資本多数決濫用の問題の背後にある、より根本的なものへと移り変わりつつある。すなわち、株主の議決権の行使は一定の目的に拘束されるのか、ということである。本研究においても考察を加えたが、フランス法学説では当時の民法学説の影響もあり、団体（法人）の利益＝会社の利益のために行使しなければならないという理解が1920年代以降に台頭し、現在に至るまで大きな影響を与えている。もっとも、近時の議論（特に2000年代以降）では、そのような伝統的な通説に対して批判的見解が提唱されている（機関投資家の存在やコーポレート・ガバナンス論の影響もあり、議論が混沌としているのが現状である）。

以上の議論の展開に考察を加え、そして日本法の現状との比較検討を踏まえて、いわば株主の議決権行使の理論的基礎を確立することが現在および今後の検討課題となる。

北海学園大学出版会
今年度2冊刊行予定

本学の教育・研究とその成果を、出版を通して社会に寄与すべく2019年4月1日に発足した「北海学園大学出版会」。昨年度まで学術書6冊と、「しまふくろう新書」3冊を刊行した。

今年度は、学術書2冊『名誉と実務のあいだ―近世イングランド・ウェールズ政治社会の複合性とその変容』（人文学部教授・仲丸英起 著）と、『「廃棄物」概念の研究―解釈論』（法学部教授・福士明 著）を刊行予定。

出版物は北海学園大学生協、北海道大学生協クラーク店、紀伊國屋書店札幌本店、Amazonで販売している。

お問い合わせは、庶務課学術・国際交流係まで。

教育振興資金
奨学金B 賞状授与

9月28日、教育振興会は奨学金B（学業成績が特に優れている学生への奨学金）の授与式を挙行し、9人に賞状を授与した。森下宏美学長より授与された賞状の文面は以下の通り。「学生の本分を守り勉励に努め学業成績が特に優れていることを讃えて、教育振興資金奨学金を授与する。本学が建学の精神と定めた開拓者精神の担い手となるべく、さらに精励することを期待する」

授与式には、給付学生、学長、各学部長、教育振興委員長、事務部長、大学院事務部長が出席

授与式には、給付学生、同窓会会長をはじめとする同窓会役員、学長、各学部長が出席

北海学園大学同窓会
第1種奨学金 認定証授与

9月29日、同窓会（豊平会）は奨学金の授与式を挙行し、学生19人に認定証を授与した。関寛同窓会会長より授与された認定証の文面は以下の通り。「あなたは学生の本分を守り勉励に努め学業成績が特に優れていることを讃えて令和5年度奨学生に認定します。当会奨学制度の趣旨を理解し引き続き学業に精励してください」

トピックス73

人文学部講師　清沢 紫織（きよさわ しおり）

ベラルーシ語とロシア語で繋がっていく世界

今年の夏は3年ぶりに東欧の国ベラルーシを訪れるはずだった。ベラルーシは私が大学院生の頃から一貫して研究対象としている国で、東にロシア、西にポーランドと国境を接し東西ヨーロッパの狭間で大国に翻弄され複雑な歴史を歩んできた国だ。自然に目を向ければ、なだらかな国土に森と草原が広がり、それを縫うようにいくつもの河川と大小の湖が連なっていく。「青い目をした大地」と詩に謳われる素朴で美しい風景だ。

かつてソ連の構成国であったことから、現地に根差したベラルーシ語と並んでロシア語も広く用いられ、両言語が共に憲法で国家語と定められている。私はこの2つの言語が人々の間でどのように使われているのかに関心をもち研究を行ってきた。両言語は言語系統的に非常に近い関係で、似通ったところが多い。例えば「こんにちは」は、ロシア語では Добрый день!、ベラルーシ語では Добры дзень! だが、いずれも発音をカナ書きすればドーブリィ・ジェニのようになる。一方で「さようなら」は、ロシア語では До свидания!（ダ・スヴィダーニャ）、ベラルーシ語では Да пабачэння!（ダ・パバチェーニャ）と異なる響きをする。

今年の夏、戦争状態のロシア・ウクライナの双方と国境を接し、また近年特に独裁的な政治体制を強化するベラルーシを訪れることは叶わなかった。代わりに、私は北西の隣国リトアニアのヴィリニュスを訪れた。街中ではリトアニア語に加えてロシア語が響いていた。戦火を逃れてきたウクライナ人、政治的迫害から亡命してきたベラルーシ人が多くいたようだ。

街の片隅にはまだ新しいベラルーシ人の教会があり、そこではベラルーシ語で礼拝が行われていた。ベラルーシ語での礼拝を聴き、集まっていた方とお茶を飲みながらベラルーシ語とロシア語を交えて歓談していると、すっかりベラルーシにいるような温かい気分になった。国境を超えた言葉が人々の繋がる空間を新たに生み出す現場というのは、なんと生き生きとしているのだろうと小さな感動があった。

ヴィリニュスのベラルーシ人正教会にて

マルクス研究週間。環境保護団体への警察捜査に抗議して公道を占拠して行われた環境問題部会

在外研修報告

ドイツ／ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学

経済学部教授　大屋 定晴（おおや さだはる）

（専門：社会経済学）

ドイツにおけるマルクス学派の現況調査

二〇二二年九月二日から二三年九月一日にかけて、ドイツ連邦共和国ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン地学・地理学部人文地理学科にて、マルクス学派的政治（空間）経済学の研究を行った。同大学は、第二次世界大戦後、批判的社会理論を提唱した「フランクフルト学派」の拠点であり、その人文地理学科は、「都市を社会的関係の表現、かつその生産主体として弁証法的にとらえ」つつ、「新自由主義的な都市開発」を批判的に研究している。

本研修では、ドイツにおけるマルクス学派の現況について最新の知見を得た。その研究思潮は、私見では、①労働運動マルクス主義を否定する「マルクスの新しい読み方」、②物象化二元論、③マルクスの実践概念やその歴史研究を重視するベルリン批判理論研究、④非ドイツ語圏マルクス学派の議論の積極的摂取と現状分析とを志向する批判的社会研究に大別しうる。さらには英米圏マルクス学派経済地理学に対するドイツ語圏研究者の受容と批判についても調査した。

本研修期間は、新型コロナウイルス感染症流行時期と重なり、ドイツでも二〇二二年一〇月から二三年三月にかけて一部公共機関でのマスク着用義務などが課せられた。

またフランクフルト市は、一三世紀からユダヤ系市民が――強制的隔離居住などの差別を被りながらも――長年暮らしてきた町であり、一九三三年から四五年にかけてのナチス政権期には一万二千人あまりのユダヤ系市民が殺害された。市内には、その犠牲者を追悼する記念碑が数多く設けられている。

さらにはロシアによるウクライナ侵攻もあって、インフレが起こるなか、公共放送局、鉄道、そして国際空港など、さまざまな産業部門で賃上げを求めるストライキがほぼ毎月、全国規模で行われた。若い世代は、都市再開発に反対してその予定地を占拠したり、気候変動対策を求めて公道占拠やデモを行ったりしており、大学構内ではイスラム系移民差別に対する抗議集会が開催された。労働運動、社会運動がさまざまに展開しており、そこにドイツ社会のある種の活力を目の当たりにした一年でもあった。

フランクフルト市
ユダヤ人犠牲者の追悼の壁

ストライキ労働者の集会

研究室の窓

経営学部講師
中川 裕美（なかがわ ゆみ）

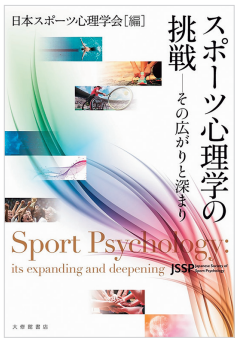
野球の話はタブー？

初対面の人と「野球・政治・宗教の話はするな」という言葉をよく耳にしますが、本当でしょうか。この3つは、確かに個人の強い信条が反映されやすい話題です。少なくとも私の故郷である広島で野球の話をする場合、慎重になる必要があります。熱狂的なカープファンに下手なことは言えません。広島駅付近を歩けば、ユニフォーム姿のカープファンたちがぞろぞろと球場に向かう姿を見ることができます。広島県民は皆カープファンなのではないかと、錯覚するほどの大人数です。

また、その熱狂ぶりは数字にも表れています。2009年、広島に新球場（マツダスタジアム）が設立されたときの観客動員数は約187万人でした。一方、今年に設立されたエスコンフィールドの観客動員数は約188万人でした。こうして比較すると日ハムファンに怒られそうですが、広島と北海道の人口を鑑みると広島県民がどれだけカープを愛しているかが分かるデータだと言えるでしょう。

カープは2016年に25年ぶりのリーグ優勝を達成し、現在は「弱いカープ」から脱却しつつあります。しかし、私が研究を開始した2012年頃（大学4年生）にはまだカープは弱いというイメージがありました。私自身もカープファンですが、「なぜ弱いカープを熱狂的に応援し続けるのか」、「なぜカープファン同士はあんなに仲が良いのか」という疑問を払拭できませんでした。その思いを当時の指導教員に熱くぶつけたところ、「そんなに好きなら研究すればいい」という助言をいただきました。そこから、自分の所属する集団に対して協力的になる現象（内集団協力）を研究テーマにすることが決定しました。

私の一連の研究結果をまとめた書籍が、今年10月に発売されました。ぜひお手にとっていただけると幸いです。現在の研究では、野球ファンと集団の性質が異なる会社員や音楽ファンなどを対象に、内集団協力のパターンやその心理メカニズムの働きがどう変化するのかを検討しています。



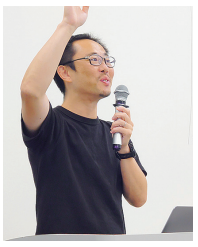
『スポーツ心理学の挑戦 ―その広がりと深まり―』
日本スポーツ心理学会 編／中川裕美（第2章執筆）
大修館書店　2023

9月2日に日本心理学会により開催された公開シンポジウム「高校生のための心理学講座2023」にて、経営学部の田中勝則准教授が講演を行いました。このシンポジウムは全国各地で毎年開催されていますが、コロナ禍の影響で北海道での対面開催は実に5年ぶりとなるものでした。当日は心理学に興味のある高校生やその保護者、教育関係者が道内各地から参加し、熱心に受講していました。

講演の前半では田中准教授の専門分野である臨床心理学について、高校生向けに入門編としての解説が行われました。臨床心理学の学問としての側面の説明だけに留まらず、これまでの臨床経験に基づいた様々な現場での臨床心理学を活用した支援や実践活動についても紹介がなされました。

講演の後半では近年若者を中心に問題となっているゲーム障害について、最新の研究知見を交えた解説が行われました。参加した高校生の皆さんは自分のゲーム利用状況について国内の大規模調査から得られた知見と比較することを通じ、自らを振り返る機会となった様子でした。

終了後のアンケートからも、今回の講演が参加した高校生の心理学への理解や興味関心を高める機会になったことが窺われました。



経営学部　田中勝則准教授

高校生のための心理学講座2023

10月8日にNPO法人多様な学生の支援を本気で考える会により開催されました『Diversity Think2023』セミナーにおいて、さっぽろレインボープライドの満島てる子様による「LGBTQの世界を知る」のご講話が行われました。本年度は北海学園大学において『メンタルヘルスがちょっと心配な方向けセミナー』『発達障害かもと思ったら』ちょっと気になるあなたのためのセミナー』に続き、3回目の実施となりまして、当日は性的なマイノリティの興味のある学生や教員関係者が参加し、多くの質問が飛び交う活発なセミナーとなりました。

講演の前半では、LGBTQに関する相談件数が年々増加していることや、悩みを抱える当事者たちの半数以上がカミングアウトしないまま過ごしている実態などについてお話いただきました。後半は大学自体には差別が存在しなくても、課外活動での着替えや入部に当たっての差別や課題が存在していること、当事者が受けているいじめの12％は教員が関係しているものであることなど、学校側が抱える課題についてもお話いただき、大変示唆に富んだお話でした。

参加した学生の皆さんは、身近な人たちを思い浮かべながら実態について考えたり、社会学的な視点から質問がなされたりするなど、様々な学びになっている様子が窺われました。また教員関係者からは、個別の対応についてや、用意すべきフレームワークなどについての質問もなされ、学校としての対応について考える貴重な機会となった様子でした。

さっぽろレインボープライド
満島てる子氏

多様な学生の支援を考えるセミナー開催

北海道立文学館出前講座

いま読み返したい、三浦綾子

人文学部教授　田中 綾（たなか あや）

北海道立文学館の評議員を2003年からつとめており、今年度も同館共催出前講座の講師を担当しました。

三浦綾子生誕100年であった昨年度から、「いま読み返したい、三浦綾子」と題して名寄市、池田町、鷹栖町で講演し、今年度も、函館市文学館、上士幌町図書館、千歳市立図書館にて、同タイトルで講演しました。

今年度の特別サービス(！)は、1966年の三浦綾子の肉声のお披露目でした。これは実は、北海学園文化協議会主催、「第1回文教講演会」で録音されたものです。本学OBの杉田孝二氏から録音テープをいただき、クリアな音質にも感激しました。『氷点』でデビューして2年目、ほぼ満席の道新ホールで堂々と講演する三浦綾子（当時44歳）の話術が見事で、その一部を講座でお聞かせし、参加された方々にも喜んでいただけました。

各地で、元ゼミ生や司書となった卒業生とも嬉しい再会ができ、来年度も機会があればと願っています。三浦綾子原作『泥流地帯』『続泥流地帯』の映画化も進んでいますので、引き続きご注目ください。

10月7日上士幌町にて

経済学部　濱田武士 教授
NHK『東北ココから』にゲスト出演

9月22日放送のNHK『東北ココから』の「現場ルポ 処理水放出 東北の海は」に、本学経済学部・濱田武士教授がゲスト出演した。

「東京電力福島第一原発にたまり続ける処理水の海洋放出。その余波が全国に広がっている。海とともに生きる人たちの現場で何が起きているのか。消費者の安心につなげる地元研究者の取り組みとは。ゲストは北海学園大学経済学部教授で「魚と日本人　食と職の経済学」「福島に農林漁業をとり戻す」などの著書がある濱田武士さん。徹底取材による現場ルポを第一線の研究者のわかりやすい解説でひもとく」（NHKより引用）

放送内容はこちらから

受験生向け Web サイト「hgu_ROOMS」の記事が「ITmedia NEWS」に掲載

本学受験生向けWebサイト「hgu_ROOMS」の記事がIT系ニュースサイト「ITmedia NEWS」に掲載された。生い立ちを中心に、世界中で幅広く採用されているクラウドコンピューティングサービス「Amazon Web Services（AWS）」の活用事例が紹介されている。

「ITmedia NEWS」掲載の記事はこちらから

「hgu_ROOMS」のトップページ

自著を語る 35

経済学部教授
古林 英一（ふるばやし えいいち）

ギャンブル産業からみた日本の現代史

「古林は競馬ばっかりしやがって」と苦々しく思っておられた方もおられるのではないでしょうか。いいえ、私、競馬だけではありません。競輪もオートレースもボートレース（競艇）もやってます。どれも面白いです。

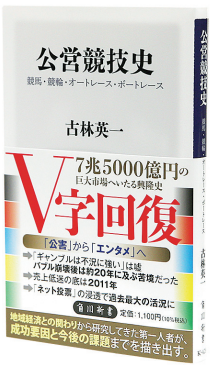
二十数年前、日本中央競馬会がおこなった競走馬の生産・流通の調査事業に加えてもらったことをきっかけに、その後、競輪・オートレース・ボートレースの調査研究をやってきました。拙著『公営競技史　競馬・競輪・オートレース・ボートレース』（角川新書）は約四半世紀にわたり、公営競技の業界をうろついてきた成果物です。

競馬や競輪はギャンブルで成り立っています。ギャンブルで成り立つ事業を、なぜ国が設立した特殊法人である日本中央競馬会や地方自治体がやっているのか。そしてそれらはどういう仕組みになっていてどう発展してきたのかを本書は解説しています。

日本の社会・経済の変化にあわせて公営競技も変貌を遂げてきました。競輪場の金網にへばりつき、おっちゃんが「バカヤロー」と選手に罵声を飛ばす光景や、騎手や選手が日々懸命に努力し、常人には真似できない技能を発揮することは昔も今も同じです。でも、一見同じに見えても、それを成り立たせている社会や科学技術は大きく変わっています。本書は競馬や競輪からみた日本の現代史を意識して書いています。

馬券も車券も舟券も買わない人にとっても、ちょっと変わった視点の現代史として読んでもらえるとうれしいです。そしてそれをきっかけに公営競技に関心を抱いてくれればさらにうれしいです。

馬券・車券・舟券は二〇歳になってから。自分や家族の生活を賭けた大勝負をしてはいけません。ほどほどに楽しみましょうね。



『公営競技史
競馬・競輪・オートレース・ボートレース』
古林英一 著
角川新書 2023年

第32回 人文学の挑戦

出産の穢（けがれ）が女性の穢になるまで
―日本中世の人生観・身体観を考える―

「第32回人文学の挑戦」が10月15日、紀伊國屋書店札幌本店で開催された。講師は『日本中世の穢と秩序意識』の著者である人文学部・片岡耕平准教授。

土俵に女性が上がれない大相撲などを例に、日本において「女性は不浄な存在である」との認識ができあがった過程を、「穢」という観念が出現した歴史とともに辿った。

9世紀に、人間や動物の死・出産が穢と定められた。「神事に影響を及ぼし、天変地異や事故の原因と考えられたため、穢に触れた際は行動を制限する期間が提示されました」。中でも出産は命の危険を伴う恐ろしいものと捉えられた。

出産が穢とされた要因は、当初、生まれたばかりの子の異質性であったが、12世紀頃から女性へと移っていく。背景に、行動規制の期間の長期化や、仏教の教えの影響などがあった。片岡先生は「各時代で穢のあり方は変化している。もともとは女性の生理現象に対する嫌悪感に根ざすものではない」と理解を求めた。

人文学部・片岡耕平准教授

研究室を訪ねて Vol.13

経済学部地域経済学科
牛久（うしく） 晴香（はるか） 准教授

【国際事情】

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻５年一貫制博士課程修了。博士（地域研究）（京都大学）。研究テーマは、国際市場とつながることによるアフリカ農村経済の変化と持続。

本学で活躍する専任教員の研究を、その人となりとともに紹介する「研究室を訪ねて」。第十三回は「国際事情」の講義を担当する経済学部の牛久晴香准教授の登場です。

―牛久先生のご出身は栃木県だそうですが、中高時代はどんな学生さんでしたか？

牛久　あんまりちょっと人に言えないんですが（笑）、中学のときは器械体操部の部活に一生懸命で、ろくに勉強してませんでした。ただ中三のときに通ってた塾の英語の先生が素晴らしい先生で、生徒のモティベーションを上げるのがとても上手だったんですね。当時私は「セーラー服が可愛いからあの商業高校に行こう」というノリで進学先を決めていたんですが、その先生が「同じセーラー服の進学校もあるぞ」と薦めてくれて、私も勉強する気になりました。

―なるほど（笑）。研究者の道を志したのはいつごろですか？

牛久　やっぱり栃木から東京の大学に入ると、授業や同級生から刺激を受けて一気に世界が広がるんですよね。それで世界の貧困問題に興味をもつようになり、最初のうちは国連に入ってアフリカの開発援助に携わりたいと思っていたんです。

ただ勉強を重ねていくと、そもそも自分はアフリカの実態をよくわかってないんじゃないかと気付いて、実務につくよりも研究をやろうという意識に変わっていったように思います。

―京大の大学院時代にガーナに長期調査に行かれています。

牛久　私が所属していたアジア・アフリカ地域研究科ではフィールドワークの手法がとても重視されていたんです。

例えば従来型の開発援助はあくまで先進国の論理優先で、援助される側にアフリカらしさを捨てさせて先進国のシステムに組み込むという側面が少なからずありました。けれど本当は援助を受ける側には受ける側の独自の論理があるはずで、それはその地域で実際に生活（フィールドワーク）してみないとわからないというガーナの〝かごバック〟を通して見えてくる異文化接触のリアル

考え方ですね。私とても染まりやすいので、これにすっかり感化されまして（笑）。

それで比較的政情が安定していて開発機関が活発に活動している英語圏の国の中から、当時のバイト仲間の出身国でもあったガーナへフィールドワークに行くことになりました。

―かなりカルチャーショックもあったのでは？

牛久　最初はやっぱり家の壁が崩れていたり、子どもが裸足なのを見て、「やっぱりアフリカは貧しいんだ」とショックを受けましたね。

でもそこで暮らしているうちに、鉄骨などを使わない土の家は、いずれ土に帰る〝究極のエコ住宅〟で、今はその過程なんだと気付くわけです。

それに村での生活は畑に入ったり水を運んだり、とにかく汚れるので、裸足なんですね。だから通学やお出かけのときには子どもたちも靴を履いていきます。

そういうのはやっぱり一緒に暮らしてみないとわからない。結局大学院生の間に計十八カ月ガーナにいて、現在に至るまで〝ガーナ通い〟が続いています。

生きづらいときのアフリカ

―現在の先生の研究テーマを教えてください。

牛久　ガーナのボルガタンガ地方の村で作られている「ボルガ・バスケット」を研究しています。これは現地では酒の漉し器として使われていたんですが、欧米や日本の開発援助機関や企業によってちょっとお洒落で手頃な〝かごバック〟として輸出されるようになったものです。

一見すると援助という形で先進国側が村にボルガ・バスケットを作らせている支配的な構図に見えるんですが、実は村の方でも何を受け入れて何を受け入れないかは取捨選択してるんですね。

例えば先進国側が現地にバスケット工場を建設して、そこに編み手を集めて量産しようとしても、誰も来ないんです。なぜなら編み手の人たちはみんな別の仕事を持っていて、その合間の時間に家でバスケットを作るというスタイルだからです。じゃあ工場はいらないかといえば、現地の人たちは工場建設を歓迎します。それは外国の人たちが自分たちの仕事をそれだけ評価してくれている証だから。

ボルガ・バスケットを通して、ガーナの農村と国際社会の関係、そしてリアルな異文化接触で生じる衝突を乗り越える方法を学んでいます。

―最後に学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

牛久　大学って自分の視野が広がる初めての場所だと思うんです。日本で暮らしているとアフリカは遠く感じるかもしれませんが、目の前にあるこのボルガ・バスケットがどうやってアフリカから日本にやってきたのか。そこに目を向けると、世界の経済の仕組みだけではなく、アフリカの人たちの生き方とか考え方を知ることに繋がります。

そうすることで日本人としての自分が当たり前と思っていることが、実はアフリカの人たちにとっては当たり前じゃないことに気付く。これは現代のようなグローバルな時代にはとても重要な視点です。さらにいえば日本でちょっと生きづらいなと感じたときに、案外、アフリカ的な生き方とか考え方が救ってくれる場面もあるかもしれない。

少なくとも私の場合は、それでずっとアフリカにハマっているところもありますね（笑）。

ボルガ・バスケットの仲買人の仕事の様子

牛久先生のプチ解説　ミドルマン

文化人類学では、異なる構造や社会の間に立って両者の関係をとりもつ役割を担う人を「ミドルマン」と呼びます。ボルガバスケットにおけるミドルマンは、編み手と同じく村で生活を営む仲買人です。仲買人は、グローバル経済の「契約の論理」で動く外国企業と、農村社会の「生活の論理」で動く編み手の間に立ち、両者の事情や言い分に折り合いをつけるような生産と売買のしくみを創出してきました。彼らはまた、一方の人々の状況の捉え方や行為の理由を、他方の人々がわかるような言葉や方法で伝えなおす「翻訳者」の役割も果たします。日本にもミドルマンはたくさんいます。日本企業と外国企業とのビジネスをとりもつ商社や、経営陣と現場社員の間に立つ企業の中間管理職などはその代表例でしょう。ミドルマンは単にモノやカネを動かすだけでなく、両者の「世界の動き方」の違いを理解し、それらをかみ合わせる歯車となって相互行為を可能にする、人間の社会的なやりとりに不可欠な存在なのです。

教員交換プログラム

カナダ・レスブリッジ大学からリ教授着任

学校法人北海学園とカナダ・レスブリッジ大学との交流協定に基づき、令和５年度第２学期の交換教員としてリ ファンファン教授が９月13日、本学に着任した。

リ教授は、本学の「カナダの自然と社会Ⅱ」を担当する。任期は12月21日まで。

「カナダの自然と社会Ⅱ」で講義するリ教授

大学スマホ・サイト ユーザビリティ調査

全国第２位を獲得

株式会社日経BPコンサルティングによる「大学スマホ・サイトユーザビリティ調査2023―2024」において、本学のWebサイトが全国第2位となった。

この調査は、全国の国立・公立・私立大学266サイトを調査対象とし、使いやすさや操作性など47項目の合計で評価される。

大学院 法学研究科３年　石田（いしだ） 潔（きよし）

日本NPO学会第25回研究大会「研究大会優秀発表賞」受賞

日本NPO学会第25回研究大会が6月10日・11日、京都産業大学5号館で開催され、法学研究科政治学専攻博士（後期）課程3年の石田潔さんが研究発表を行い、「研究大会優秀発表賞」を受賞した。

石田さんは「ソーシャル・キャピタルがインフォーマルサービスの創出に与える影響について―通院困難患者に関わる調査分析から―」というテーマで発表を行った。

大学院 文学研究科１年　武田（たけだ） 佑希子（ゆきこ）

マップギャラリー2023「ストーリーマップ部門」で1位

武田さんの入賞作品

5月18日・19日、第20回GISコミュニティフォーラム（東京ミッドタウン）の中で開催された地図作品のコンテスト「マップギャラリー2023」のストーリーマップ部門で、本学文学研究科の武田佑希子さんの作品『「幽鬼の街」小樽を歩く―小樽の街の今昔と伊藤整の「坂」表現―』が見事1位に選ばれた。

武田さんは、受講している「GIS現地調査基礎」で実施された小樽のフィールドワークで、作家・伊藤整の小説『幽鬼の街』の主人公の足取りを辿り、小説で描いた小樽の街と当時の小樽、そして現在の小樽の街を比較。「物語と場所」の魅力を伝える作品となった。

武田さんの作品

学長賞受賞

令和5年度学長賞の表彰が9月22日に行われた。「マップギャラリー2023」のストーリーマップ部門で1位に選ばれた文学研究科の武田佑希子さんが受賞した。関係者同席のもと、森下宏美学長から表彰状が授与され、激励の言葉が贈られた。

学長賞は、体育・文化活動等において特に顕著な成績を収めた学生に対し授与される。

学長賞を受賞した武田佑希子さん（右）

ボクシング部　西出（にしで） 彩華（あやか）（人文学部1年）

第３回全日本マスボクシング選手権大会で２位

9月16日から18日に開催された第3回全日本マスボクシング選手権大会（群馬県・高崎アリーナ・主催／公益社団法人日本ボクシング連盟）の「U―30女子160㎝までの階級」で、本学ボクシング部の西出彩華さん（人文学部1年）が見事2位となった。

西出さんは初戦を3―0で勝利し、決勝では1―2と健闘した。

第３回全日本マスボクシング選手権大会

国際交流プログラム

海外研修で異文化体験

経済学部 夏期海外研修
韓国・大田大学

韓国で実感した日本

経済学部経済学科2年
齋藤 祐来

私は、8月に韓国の大田大学校へ3週間夏期海外研修として参加しました。

生活の中で、韓国の方はフレンドリーだと感じました。お店に行く度に店員の方が話しかけてくださり、未熟な韓国語を優しく聞いていただいたことが嬉しく韓国語を活用する機会にもなりました。

全州でのチマチョゴリ体験

また、韓国は「パリパリ（早く早く）文化」の国だと言われており飲食店での提供の早さや、バスでは乗車した瞬間に出発するなど、早さに驚くことが多々ありました。日本にないような魅力的なお店やグルメ、観光地がたくさんあり、その魅力を楽しむと同時に、日本の生活がとても快適で便利であることを実感しました。他国での生活は、言葉の壁や文化に対応することの難しさも感じましたが、自身の視野が広がり将来の糧になると思いました。

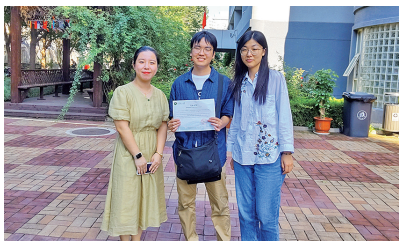
初めての海外で不安な面もありましたが、共に研修した仲間や引率の先生、大田大学校の方々のおかげで、楽しく充実した3週間を過ごすことができました。

人文学部 短期留学
中国・北京理工大学

コミュニケーションの大切さを実感

人文学部日本文化学科3年
佐藤 耕太郎

北京理工大学の留学生宿舎には、様々な国からの留学生がいた。特に仲良くしてくれたのは、私たちより二回りほど年上のパキスタン人留学生で、北京の観光地「什刹海公园」に連れて行ってくれた。彼らに「シャイでいるのはよくない。コミュニケーションは大事だ」と諭され、私は拙い英語ながら他留学生と果敢にコミュニケーションをとるようになった。中国語を学ぶ留学生と、英語と中国語の交じったいわゆるピジンのようなコミュニケーションができたのも印象的だった。


修了書を受け取ったのち、理工大学の陳先生、丁先生とともに

留学生宿舎の共通語が英語であったのと反対に、学内の売店や食堂は中国語しか通じない。いざ中国語を話すとなると緊張し、注文に失敗することもあったが、中国語で会話や交渉ができたことは嬉しかった。

出発前の不安とは裏腹に、理工大学での生活は大変快適なものだった。授業や留学生との交流、北京の街を通して、異文化というものを初めて体験することができた。二週間という短期間ではあったが、多くのカルチャーショックと発見があり、大変学びの多い留学となった。

経営学部 海外総合実習
アメリカ・ハワイ大学

ハワイでの素敵な出会いと身についた自信

経営学部経営情報学科3年
石黒 未来

私は経営学部の海外総合実習を通して、ハワイ大学で行われる三週間のNICEプログラムに参加しました。

個人的に初めてホームステイをした経験がとても印象深く、大変な部分も多くありました。ハウスルールをしっかり守ることと、ホストファミリーとのコミュニケーションを大切に過ごしていました。

授業や日常生活を通して長期間英語を話す環境にいることも、私にとって初めての経験でした。ハワイに行ったことで出会えた大学のクラスメイト達とは、毎日仲良く授業を受けました。

これらの初めての経験や学びにより、私は以前よりも自分に自信が持てるようになったと思います。

加えてハワイでの生活において、歩道や芝生の上でくつろいでいる人を多数見かけたりなど、現地の人の自由さに驚いたとともに、周りを気にせず自分らしく生きることが大事だということを学びました。

この経験を大切にし、限界を決めずに自分らしく、もっと色々なことに挑戦していきたいです。

車の荷台に乗ってディズニーリゾートへ

日中友好平和条約締結45周年記念

「北海道地区大学生中国友好訪問団」に学生派遣

中国に出発前空港で中国領事館の領事たちと集合写真

日中友好平和条約締結45周年を祝して、在札幌中国領事館の要請に応じ、本学と北海商科大学は学生18名と引率教員3名からなる「北海道地区大学生中国友好訪問団」を派遣しました。

訪中団は、9月12日から19日までの一週間にわたり、中国山東省煙台市、威海市、済南市、北京市などの都市を訪問しました。同じ中国の都市とはいえ、山東省と北京は食文化や街づくりなどが異なる魅力を示してくれました。

山東での交流では、煙台大学との間で学生同士の直接の交流が行われました。北京では、世界遺産である天壇、故宮、そして万里の長城を観光し、中国の大手航空会社である南方航空大興基地を訪問し、先進技術の最前線を見学しました。

特別な行事に参加するために忙しいスケジュールでしたが、学生たちは大きな健康上の問題もなく、全員が元気に帰国の途につきました。

訪中団のメンバーたちは、さまざまな文化体験を通じて、中国の生活や文化を直接感じる貴重な機会を得ました。これにより、異なる文化に対する理解が深まり、直接会って交流することの重要性を実感しました。この訪問は、日中友好の一翼を担い、将来の交流に向けた重要な一歩となりました。

このプロジェクトに協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。

（工学部教授　楊 安娜）

ジョブヨク海外研修 Vol.7 ベトナム・ハノイ

経営学部経営学科3年
大川 陽聖

私は9月5日から9月11日に、ジョブヨクの海外研修としてベトナムの首都ハノイに行きました。

研修ではメインプログラムとして、タンロン大学、ハノイ大学、フェニカ大学の3校を訪れ、現地の学生と共に「グローバル人材とは」「海外で働くとは」というテーマでワークショップを行い、交流を深めました。その他、ハノイで働く日本人の方々ともお話することができ、とても充実した研修でした。

食事や交通量、国の活気といった生活環境が違う中での経験は刺激的で、海外で働きたいと考えるきっかけとなる最高の旅でした。

【ジョブヨク（職欲の未来）という団体について】

ワークショップに参加したメンバーと（写真前列右から４人目が筆者）

ジョブヨクとは、学生と大人が対等に「生き方」や「働き方」について話すことのできるワークショップイベントです。2013年にプロジェクトが立ち上がり、東京では250回以上開催されています。札幌は北海学園大学の学生チームが運営しており、来年1月で10回目の開催を迎えます。

参加条件はなく、誰もが無料で気軽に参加できる学びの場となっています。

ジョブヨクの詳細はこちら

私の学び

経営学部経営学科３年
渡辺 彩花

ミニチュア制作体験のワークショップ前で（写真左が筆者）

「経営学」×「学芸員課程」×「ミニチュア」

私は幼い頃からミニチュアが好きでした。好きが高じていつしか自作するようになった時には、ミニチュア作家として活躍する方々への憧れがありました。堂々と作品を並べ、魅了する姿に惹かれ、いつしか「どんなものが求められて、どんなものが売れるのか」が気になるようになりました。そこで選択したのが、経営学部の戦略・マーケティングコースです。

大学入学後は、自身の作品を学術的に捉え、ブランドを確立しました。コンセプトは「そっくりそのまま、本物凝縮」。SNSでは「本物凝縮作家あやかすぎん」として活動中です。このコンセプトをもとに企業コラボを実現し、既存メニューをミニチュア化することによる再現性が魅力です。

また、学芸員課程では資料の魅せ方を学んでいます。私のミニチュアには実際のメニューの紹介文がかかれているのもその影響ですが、保存方法やディスプレイ、資料づくりなどにも知識が生かされています。博物館経営論では実際にミニミュージアムを作り、ミニチュアの他に展示構成や特別展図録を書き起こしたことは、学びを深めるきっかけとなりました。

今年度からは、イベント出店や不定期ミニチュア教室（写真）の開講も行っています。次回出店のサッポロモノヴィレッジ（12月16・17日）では、より多くの方に魅力を感じていただけるよう頑張りたいです。

経営学部経営学科４年
成田 莉久

もんすけラボの取材で訪れたお店

私は「もんすけラボ」（テレビ局のHBCと北海学園大学との連携事業）でニセコ町の防災活動に4年間参加してきました。ニセコ町ではこれまで大規模な災害が少なかったことから、町役場では住民の防災意識を高める施策を進めています。たとえば「防災マップづくり」。実際に町を見て回りながら災害時に必要な情報を地図にまとめる活動で、地域の未来を担う子どもたちをいかに巻き込むかがテーマになりました。

大学生としてどのような貢献ができるだろうか。みんなと議論を重ねた結果、子どもたちと大人を繋ぐ仲介者としての役割を果たせるのではないかという結論になりました。子どもたちにいかに楽しく防災活動に参加してもらうかを念頭に、クイズや防災を考える時間を企画しました。実際にクイズを出題すると、子どもたちは真剣に、そして楽しく活動に参加してくれました。

ニセコ町防災活動に学ぶ社会貢献

大学の講義では、知識や理論を学ぶことができます。一方で、現実の社会課題の解決プロセスを実践的に学ぶ機会は多くはありません。私はこの活動を通して、大学の学びがどのように社会貢献に繋がるのか知ることができました。また、地域の方々や子どもたちと協力して社会課題に取り組むことの意義や楽しさを感じました。これからも地域に貢献できる人材になるために、学び続けていきたいと思います。

学園人脈記

第25回

人を応援する「チア」の魅力を普及

北海道コンサドーレ札幌「コンサドールズ」

ディレクター　千葉（ちば）侑奈（ゆうな）氏

経営学部経営学科 平成29年度卒・12期生

多種多様な業界で活躍する同窓生をリレー形式で連載している「人脈記」。今回は、北海道コンサドーレ札幌「コンサドールズ」のディレクターである千葉侑奈さんを紹介する。

●●●●●

Jリーグ・北海道コンサドーレ札幌のホームゲームでダンスパフォーマンスを披露する「コンサドールズ」は、日本サッカー初のオフィシャルダンスドリルチームだ。千葉さんは幼少期からその下部組織に加入し、大学卒業後まで所属した。

「母がもともとコンサドーレのサポーターで、私が体を動かすことが好きだったのをきっかけに、2001年にコンサドールズキッズ（園児カテゴリ）に応募をして加入しました。2016年にはキャプテンを務め、2019年からコーチ兼任となりました。大学時代からインストラクターとして子どもたちのレッスンもしていて今に至ります」

ダンスで人を応援し、自分も見ている人も笑顔になるチアの魅力を伝えていきたいと、自身が踊るだけではなく指導の道にも進んだ。現在はコンサドールズのディレクターとして下部組織のスキルアップをサポートしながら、アメリカに本部を置くUSAジャパンで、チアやダンスの普及活動を行っている。

「USAジャパンはチアやダンスの講習会を開催したり、毎年3月に幕張メッセで行われる全国大会の運営に携わります。大会は、全国から厳しい予選を勝ち抜いたひと握りのチームが競い合います」

大会に出場するアスリート部門のチアのチームも育てている。「アスリート部門のチアは、2分間の演技の中ノンストップで動いて、力強さ、テクニックの正確さ、そのクオリティが求められる競技です。私自身、やりがいを感じられる大会が大好きだったので、コンサドールズをやりながら出場していました。体力的にきつくてしんどいという声も子どもたちからあがるんですけど（笑）、それを乗り越えた先は絶対に楽しいし、人としての成長にも繋がって、チームワークを高めていくものになります。魅力がいっぱいあるので、大会に出場していい思い出を作ってもらいたいなと思います」。

コンサドールズ時代の千葉さん（左）
©2018 CONSADOLE

●●●●●

大学時代は学業とコンサドールズを両立させながら日々を過ごした。「増地ゼミの仲間とは今も交流が続いています。また、浦野先生の英語の授業がすごく楽しかったことが思い出されます。USAジャパンの研修でアメリカに行く機会があったときは、授業を受けていたおかげで英語が聞き取れていると感じました」と振り返る。

「18年間続けてきたコンサドールズは生きがいになり、誇りに思っています。いま指導している子たちにも楽しく踊れる環境を作っていき、やっていて良かったと思ってもらえるきっかけになりたいです」

［プロフィール］2018年北海学園大学経営学部卒業。2001～19年コンサドールズに所属。在学中にUSAジャパンのインストラクターのオーディションに合格。現在、USAジャパンリージョナルヘッドインストラクター、コンサドールズディレクター。

地域の現場から

学芸員として過去と未来を橋渡し

奥尻町 教育委員会事務局 社会教育係

主任学芸員　稲垣（いながき）森太（しんた）

人文学部日本文化学科 平成16年度卒・9期生

北海道南西部の日本海に浮かぶ奥尻島。冬から春先にかけて絶滅危惧種のオジロワシやオオワシが目の前を飛来する豊かな自然環境と大らかな島人たちのなかで、本学OBの稲垣森太さんは学芸員として、13年にわたり活躍している。

「学芸員としては、文化財の保護、歴史民俗資料展示室の管理・運営、津波館の管理など多岐に渡ります。遺跡調査は手付かずのフィールドがまだまだ残されていて、ひとつずつ手を入れていくのが楽しみです。町の教育委員会所属なので、島のスポーツ大会や文化祭の手伝いも仕事のひとつです」

廃校になった小学校を改装して作った歴史民俗資料展示室では、縄文土器や古民具を裸で展示している。

「展示物は触っていいことにしています。そのほうがはるかに物の本質を理解できると思いますから」

また、奥尻には多くの遺跡があり、日本でも珍しい丁字頭（ちょうじがしら）勾玉はその中でも一級品だ。「8世紀頃のもので、当時から広い交易や流通があったと考えられている。過去の奥尻人の営みを学び、次世代へ伝えていきたいです」。

宮津弁天宮にて
続縄文時代の土器を発見

1993年7月12日の北海道南西沖地震の発生から30年の節目となった今年は世間の注目がより高まったが、地震の経験者は減っており、当時の状況を語れる人も限られてきた。いま町教育委員会では被災者の証言を録音、撮影する取り組みを始めている。

「奥尻の現代史で真っ先に出てくるのは地震・津波の災害とその後の復旧・復興ですが、順調だったわけではなく、緩やかに衰退し、人口も減少しています。記録を残せるのもいまのうち。待ったなしの状況だと感じています」

●●●

子どもの頃からピラミッドなどの古代遺跡に興味のあった稲垣さんが、学芸員を目指し、大学で学芸員課程を履修したのは自然な流れだった。

「私は子どもの頃、人見知りなほうでしたが、大学の学芸員課程で多くの先生と交流したり、遺跡発掘のバイトをして年配の方と過ごしたり、資料館や博物館で担当者の話を聞いたりすることで、同級生以外との付き合いがかなり増えたんです。卒業後はすぐに学芸員として就職できず全国を転々としましたが、どこへ行ってもやっていける下地は学芸員課程時代にできたと思います。学生さんも大学の中に留まらないで、学外との交流を増やしてほしいです」

同窓生の声

イラストレーター

田端（たばた）菜穂（なほ）

経営学部経営情報学科 平成19年度卒・2期生

卒業後は就職をするも、「おもしろいぐらいのブラック企業だった」ためすぐに退職。学生時代にバイトをしていた塾から社員の誘いがあり、7年勤めた。結婚、出産を想定し、夜から昼の仕事に転職することを考えていたところ、友人からブランド服の買取専門店を紹介され、3年ほど店長として勤めた。

「お客様のお役に立てるなど整理収納アドバイザーの資格を取ったり、セミナーに参加するなど色々な勉強をしていた時期がありました。私は板書を漫画でメモする癖があって、それを見た人に「私にも4コマ描いて！」と言われて（笑）。漫画で速記する田端さんの特技は人伝に広まった。紹介からどんどん依頼が入り、いつしか本業となった。

出産後、2017年に起業。「2人目が欲しいなと思っていたとき、会社勤務よりも自分のペースで仕事をしながら子育てするほうが私には合っていると思い、起業しました」。

仕事は95%以上が紹介によるものだという。企業のSNS用画像、4コマ名刺、LINEスタンプ、フリーペーパーの挿絵、ユニフォームデザインなど分野は幅広い。雑談形式の打ち合わせを重視し、その場で漫画にして提案していく。「相手が気づいていない良さを見つけることもできるので、ただの雑談がけっこう重要です」。田端さんだからこその視点が好評で、仕事は途切れない。

◆◆◆

今月からは、漫画サイトで連載が始まる。「今までの延長のようでまったく違う。テーマもゼロから自分で作るので、使う脳みそも全然別物のように感じます。不安や怖さもありますが、連載が終わる頃には結構強い状態になっているんじゃないかと期待しています」。

これまでのイラストや4コマ漫画ではない、新しい仕事へのチャレンジだ。

田端さんの最新情報はこちらのXアカウントから

漫画で相手の魅力を描き出す

田端さんの育児4コマ漫画

柔道部 団体と個人で全国大会出場

8月26日・27日に千歳市開基記念総合武道館で開催された北海道学生柔道体重別選手権大会および北海道学生柔道体重別団体優勝大会において、本学柔道部が団体戦で3位に入賞した。

個人戦では、90kg級で中村考志さん（1年）が優勝、81kg級で木村和暉さん（2年）が3位に入賞し、団体・個人いずれも全国大会への出場を決めた。

これにより、9月30日・10月1日に日本武道館（東京都）で行われた「全日本学生柔道体重別選手権大会」、および10月21日・22日にベイコム総合体育館（兵庫県）で行われた「全日本学生柔道体重別団体優勝大会」に出場した。

木村和暉さん（左）と中村考志さん

本学柔道部のメンバー

剣道部 全国大会出場

9月18日に北海道大学で開催された第70回北海道学生剣道優勝大会において、本学剣道部が準優勝した。

これにより、11月5日に大阪市中央体育館で行われた「第71回全日本学生剣道優勝大会」に出場した。

本学剣道部のメンバー

工学部 建築学科

沼田町空き家リノベーション・プロジェクト2023【2巡目】

役場の一級建築士によるアドバイス

2017年から工学部建築学科では、岡本研究室を中心に沼田町の空き家リノベーション活動に取り組んでいる。2019年度には本学と沼田町との包括連携協定締結にもつながり、活動を継続している。

今年度の2巡目は8月7日から3泊4日で行われた。初日は初参加の後輩たちへ工具の安全な使い方をレクチャーしてから作業開始。沼田町役場建設課の一級建築士から、進め方のアドバイスをいただいた。夕方からは横山町長を囲んで懇親会を開催し、学生たちは役場の方々と親睦を深めた。

2日目の夜は、8月末に開催される夜高あんどん祭りのあんどんに紙を貼る作業を体験。リノベーション活動を超えて、地元の人たちや文化に触れる機会もこの活動の魅力である。

毎晩、進捗状況の確認と翌日の作業に関する打合せを行うが、全体のスケジュールを意識して人員を配置し、作業負荷を適度に分散しながら進捗を管理することが今後の課題となりそうだ。

令和５年度北方領土ゼミナールに学生参加

９月12日から14日まで、根室市で北方領土ゼミナール（主催：独立行政法人北方領土問題対策協会）が実施され、本学の学生２名が招待された。全国の大学生に北方領土問題を正しく理解してもらい、意識を高めることで、返還運動の後継者を育成することを目的に毎年行われている。

納沙布岬 四島の架け橋にて

根室で北方領土問題を考える

経済学部経済学科３年　**佐々木（ささき） 俊哉（としや）**

私は９月12日から14日までの３日間、根室市にて開催された北方領土ゼミナールに参加をいたしました。このゼミナールは、北方領土問題対策協会（北対協）の主催で、全国の大学生が根室に集まり北方領土問題について学び意識を高めることで返還運動の後継者を育成することを目的に毎年行われているものです。今年はコロナ禍後では初となる対面での実施となり、北海道から沖縄県までの文字通り全国各地の大学生が根室の地で一堂に会することとなりました。

ゼミナールでは、納沙布岬からの北方領土視察、元島民とロシア問題の専門家の方による講演、そしてグループワークショップにて学生同士で意見の出し合いとプレゼンを行いました。

私はロシア語の授業を受けていることもあり、元々日露の関係や北方領土問題には関心があり今回このゼミナールに参加させていただきましたが、厳しい目下の状況で自分には何ができるのかを改めて考えさせられる機会となりました。

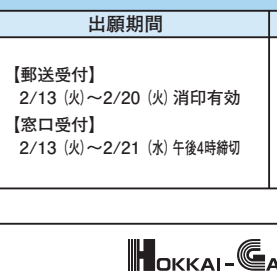
領土問題の現実を再認識

法学部１年　**八木（やぎ） 蒼生（あおい）**

北方領土ゼミナールでは大学生の我々が返還運動の「後継者」としてふさわしい学識や態度を身につけられるよう、納沙布岬からの北方領土の視察や元島民による講話だけでなく、防衛研究所職員によるウクライナ情勢を絡めた北方領土問題についての実践的な講義を受講させていただきました。

特に今回のゼミナールにて最も多くの時間を占めたグループディスカッションでは「今後の返還運動を維持するために活用すべきとされるSNS上での発信をどのようにすべきであるか」をお題にグループを作り議論し、グループ内ではTwitterやInstagram、Youtubeなどこれから中心となってゆく世代の多くが使用しているアプリケーションを活用したうえで、「まずは北方領土問題を認知してもらうこと」や「ウェザーニュースのように今日の北方領土の天気を発信する」など様々な意見をともに出し合い、最終日に発表をしました。

このゼミナールを通して、北方領土問題が過ぎたものではなく今なお続いている問題であると再実感するとともに、領土問題の解決の難しさを痛感しました。



ゼミナールの会場風景

第72回 十月祭 第52回 工学祭 ―一般来場者迎え ４年ぶり通常開催

十月祭２日目、体育館で演舞するよさこいソーランチーム粋～IKI～北海学園大学

10月8日・9日に豊平キャンパスで十月祭、10月7日に山鼻キャンパスで工学祭が開催された。

新型コロナウイルスの影響により2020年は中止、21年は規模を縮小してオンラインと対面のハイブリッド方式で開催、22年は本学の学生限定で対面開催となっていたが、今年は4年ぶりに一般来場者も迎え、制限のない従来通りの開催となった。

今年度のテーマは「全開、十月祭。」。体育館では、俳優の神木隆之介さんのトークショーをはじめ、よさこい、ミスター・ミスコンテスト、HOKKAI大抽選会など、屋外では縁日や、各サークルやゼミによる飲食店などが出店され、大いに盛り上がった。天気にも恵まれ、学生たちは楽しい時間を過ごしていた。

工学祭でジンギスカンを楽しむボードゲームサークルの学生たち

工学祭で漫画研究会による作品展示

保護者懇談会 ４年ぶり対面開催

山鼻校舎での就職活動支援勉強会

令和5年度保護者懇談会が、10月1日（日）に旭川会場、10月15日（日）に帯広会場、10月22日（日）に函館会場、10月28日（土）に山鼻校舎、11月5日（日）に豊平校舎で実施された。

保護者懇談会は、本学の教育の取り組みを説明し、大学と保護者との相互理解を深めることを目的に毎年開催されている。新型コロナウイルスの影響で、対面での実施は4年ぶりとなった。

各会場では、学部・学科別説明会、保護者のための就職活動支援勉強会（就職活動の正しい知識、大学の支援方法、学生が悩むポイントや保護者に求めたい支援、企業が求める人材などについて説明）、個別面談、施設見学、学食体験などが行われた。

保護者からは、「非常に内容の濃い懇談会で本当に参加して良かった」「理解度が曖昧だった成績や単位について先生から説明を頂く機会があり助かった」「なかなか大学へ行く機会が無いので施設を回ることは新鮮だった」などの意見が寄せられた。

北海学園大学同窓会『豊平会報』

北海学園大学同窓会で発行している『豊平会報』を下記のQRコードよりご覧いただけます。

学長室訪問

▽9月8日　法政大学副学長 小秋元段氏、同教学企画室長 平山喜雄氏、同部長 鈴木弘一氏、同課長 藤原敏彦氏、荒井俊樹氏、学務課長 鷹嘴夕子氏
▽9月19日　レスブリッジ大学交換教員 リファンファン教授 着任挨拶
▽10月2日　北海道開発技術センター理事長 倉内公嘉氏
▽10月10日　北海学園大学名誉教授 木村和範氏
▽11月1日　北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部長 土屋努氏、同マネージャー 松本真実氏、同社会共創部産学連携課課長補佐 橋場学博氏

2024年度 特別選抜速報

11月26日（日）、2024年度特別選抜を実施した。出願者数は1部437名、2部263名の合計700名で、前年と比べて約1%減少した。

特別選抜出願状況（推薦、社会人、留学生他）

入試年度	1部計	2部計	合計	前年度比
2022年度	472	243	715	105%
2023年度	467	241	708	99%
2024年度	437	263	700	99%

2023年度 大学院進学説明会

経済学研究科・経営学研究科・法学研究科・文学研究科
12/2（土） 13:00～14:30 豊平キャンパス 6号館3階

工学研究科
12/8（金） 14:30～15:30 山鼻キャンパス 3号館2階

【開催内容】入学者選抜説明、個別相談、施設案内

【参加費無料、事前申込不要】

2024年度 大学院入学者選抜日程

修士課程（第Ⅱ期）／博士（後期）課程

研究科名	専攻名	出願期間	試験日
経済学研究科	経済政策専攻	1月10日(水)～1月17日(水)	2月17日(土)
経営学研究科	経営学専攻		
法学研究科	法律学専攻		
	政治学専攻		
文学研究科	日本文化専攻		
	英米文化専攻		
工学研究科	建設工学専攻		2月14日(水)
	電子情報生命工学専攻		

令和６年度 選抜日程

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・特別選抜（社会人Ⅱ期）

※詳細は募集要項でご確認ください。URL https://www.hgu.jp/

一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜

学部	学科	試験日 一般選抜	試験日 共通テスト利用選抜	出願期間 一般選抜	出願期間 共通テスト利用選抜	合格発表 一般選抜	合格発表 共通テスト利用選抜
＊経済学部（経済学科・地域経済学科）		2/9（金） 2/10（土）	大学入学共通テスト 1/13（土） 1/14（日）	【郵送受付】1/4（木）～1/25（木）消印有効 【窓口受付】1/4（木）～1/26（金）午後4時締切	Ⅰ期 1部の全学部と人文学部2部で実施。 【郵送受付】1/4（木）～1/29（月）消印有効 【窓口受付】1/4（木）～1/30（火）午後4時締切 Ⅱ期 1部の全学部と経営学部・法学部2部で実施。 【郵送受付】2/13（火）～3/7（木）消印有効 【窓口受付】2/13（火）～3/8（金）午後4時締切	2/24（土）午前10時	Ⅰ期 2/24（土）午前10時 Ⅱ期 3/18（月）午前10時
経営学部	経営学科	2/10（土）					
	経営情報学科	2/11（日）					
＊法学部（法律学科・政治学科）		2/11（日） 2/12（月）					
人文学部	日本文化学科	2/12（月）					
	英米文化学科	2/9（金）					
工学部	社会環境工学科 社会環境コース	2/10（土）	本学での個別学力試験は行いません				
	社会環境工学科 環境情報コース	2/11（日）					
	建築学科	2/9（金）					
	電子情報工学科	2/10（土）					
	生命工学科	2/11（日）					

特別選抜（社会人Ⅱ期）

学部	学科	試験日	出願期間	合格発表
＊経済学部２部	経済学科・地域経済学科	3/2（土）	【郵送受付】2/13（火）～2/20（火）消印有効 【窓口受付】2/13（火）～2/21（水）午後4時締切	3/14（木）午前10時
経営学部１部	経営学科・経営情報学科			
経営学部２部	経営学科			
＊法学部２部	法律学科・政治学科			

＊ 経済学部・法学部は「学部」単位での募集とし、学科は１年次末に決定します。

アセスメントテスト GPS-Academic を実施

本学では全学生を対象にアセスメントテスト GPS-Academic を実施しています。今年度は１年生 1,719 名、２年生 1,661 名、３年生 1,467 名、４年生 1,113 名が受検しました。

GPS-Academic とは社会が求める「問題解決能力」について、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の３つの視点から測定するテストです。設問は、多面的な分析ができるよう「客観評価」「主観評価」「学生意識アンケート」で構成され、最終的な分析結果が学生一人ひとりに「個人結果レポート」として返却されます。GPS-Academic を大学での学修が自身の成長にどのように繋がっているのかを知る機会とし、さらには将来を考えるきっかけにしてほしいと考えています。

北海学園大学は今後とも、こうしたアセスメントや各種調査を通して学生支援に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。